

新医学系指针对応「情報公開文書」フォーム

単施設研究用

「全身麻酔下術後抜管前後の酸素飽和度低下における適切なプロポフォール投与量」に関する後方視的調査

1. 研究の対象

2018年4月～2024年12月に全身麻酔下術後抜管前後で緊急コールが発動され酸素飽和度低下を認めた症例

2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的 麻酔の覚醒待機時は咽頭反射や唾液分泌を司る神経が順に回復するために、声帯閉鎖（喉頭痙攣）や咳嗽が遷延し酸素飽和度が低下することがある。加えて、小児は少ない機能的残気量により急激な酸素飽和度の低下を認める。対応は持続陽圧換気や麻酔薬を投与し、深い麻酔状態にすることが挙げられる。しかし酸素飽和度上昇までに必要な麻酔薬（プロポフォール）の量は担当麻酔科医師の判断による。麻酔方法や酸素飽和度低下開始直前の麻酔深度によって、酸素飽和度の回復までに使用するプロポフォールの量に違いがあるのかを後方視的に検討する。

研究期間 2018年4月～2024年12月に全身麻酔下術後抜管前後で緊急コールが発動され酸素飽和度低下を認めた症例

除外項目：緊急コール発動時にプロポフォールを使用していない症例
緊急コール発動時酸素飽和度低下を認めない症例

方法

ORSYS(PHILIPS 社)の麻酔記録から以下の項目を抽出

- ① 緊急コール発動に至った時のプロポフォール効果部位濃度
- ② 酸素飽和度回復までに投与された体重あたりのプロポフォール投与量 (mg/kg) およびレスキュー用プロポフォール投与後の最大効果部位濃度 (ug/ml)
- ③ 酸素飽和度低下開始か回復までに要した時間 (分)

・緊急コール発動時の麻酔深度と酸素飽和度回復までに投与された体重あたりのプロポフォール投与量 (mg/kg) 及びレスキュー後最大効果部位濃度 (μ g/kg) との関係
・体重あたりの初回プロポフォール投与量 (mg/kg) と酸素飽和度回復までに要した時間 (分) の関係を明らかにする

3. 研究に用いる試料・情報の種類

取得する個人情報等の項目（手術日、性別、年齢、身長、体重、麻酔方法、合併症の有無等）

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

あいち小児保健医療総合センター

部署名 麻酔科 研究責任者 山口 由紀子

〒474-8710 愛知県大府市森岡町七丁目 426 番地

電話 0562-43-0500（代表）FAX 0562-43-0513

-----以上